

平成 25 年度第 7 回 国立市地域公共交通会議 要点記録

◆日 時 平成 26 年 2 月 24 日（月）午前 10 時 00 分～12 時 10 分

◆場 所 国立市役所 3 階 第 1・2 会議室

◆出席者

国立市地域公共交通会議委員（代理出席含む）13 名

会長	岡村 敏之	学識経験者
副会長	佐々木 一郎	都市整備部長
委員	佐多 謙一	一般乗合旅客自動車運送事業者
〃	原田 弘司	一般乗用旅客自動車運送事業者
〃	清水 光司	〃
〃	（代理出席）	国土交通省関東運輸局
〃	野崎 元	都道管理者
〃	江村 英利	市道管理者
〃	井上 伸一	警視庁立川警察署
〃	田中 義忠	公募市民
〃	三好 幸雄	〃
〃	熊井 大	〃
〃	池田 洋介	〃

（欠席）

委員	佐藤 祐浩	一般乗合旅客自動車運送事業者
〃	鵜澤 健一	一般旅客自動車運送事業者労働組合

（敬称略）

事務局	4 名	都市整備部交通課交通係
-----	-----	-------------

◆配布資料

- ・次 第
- ・資料No.1 コミュニティワゴン試行運行の評価基準について
- ・資料No.2 回数券について
- ・資料No.3 試行運行の周知広報について
- ・参考資料No.1 停留所標識構造図
- ・参考資料No.2 車両デザイン案
- ・参考資料No.3 国立市地域交通計画（案）概要版

◆要点記録

1. 前回の確認など（事務局）

事務局：あらかじめ郵送でご確認を頂いた前回の要点記録の確認をお願いします。これでよろしければ市のホームページ上で公開します。

委員一同：異議なし。

2. 報告事項など

事務局：運行開始日に係る書面会議にご協力をいただき誠にありがとうございました。

事務局：停留所については、参考資料1の通り業者に設置工事を進めてもらっているところです。車両については、参考資料2の通りデザインを検討しているところです。

委員：もし可能であればいいのだが、バス停で待っている人がいることがわかるような工夫ができないか。

委員：日の短い時期でもバス停の掲示事項が読めるような配慮をお願いしたい。ワゴン前面のくにつこミニとルート名表示は逆の方が良いのではないかと。扉の経路図が目線より低いので、もう少し高くした方がいいと思う。

事務局：バス停の工夫については今後の検討課題としたい。経路図はここがいいのではないかと考えている。

委員：車両デザインは利用者数を左右する大切な要素である。あせらずに時間かけてでもきちんとしたものにしていただきたい。

委員：フロントウィンドの上には行き先（ルート名）を出した方がいいのではないかと。

委員：デザインは試行錯誤を重ねている。今日の資料だと色が薄い感じだが実物はよりはっきりしたものとなっており、遠くにあっても見えるので問題ないと考えている。

委員：車内・車外に広告を出すことを考えているか。広告収入があれば経費補填になるのではないかと。

事務局：現行のくにつこは車内広告のみである。ワゴン車の場合は室内広告をだすスペースがあまりない。車外広告もスペースがあまりない中で検討が必要である。

委員：リヤタイヤの上からルーフレール間のスペースなどをうまく使えないか。

会 長： 広告収入としての収入は、絶対的な金額としては限られるというのが実態である。広告料としての収入よりも沿線企業などから寄付をもらい「サポーター」として協力をいただいていることなど車両に掲出する方法もある。

委 員： 現行くにつこのバス停の掲出内容は、掲出位置が低くて内容も字が細かく見にくくてわかりにくいのでそうならないよう配慮をお願いしたい。

事務局： くにつこミニについては、ダイヤはパターンダイヤなので大きく掲示できる。文字を大きくするなど、見やすくなるように工夫したい。

委 員： 3ルートとも止まるバス停ではポールを3本立てるのか？

事務局： 3ルートとも止まるバス停は1本のポールの中にダイヤ等を入れる予定である。現行くにつこ北西中ルートと重なる停留所は現行の停留所ポールの掲示スペースを追加する。

委 員： 太陽光発電で、バス停の時刻部分の照明ができないか？

会 長： 南地域は街灯も少なく暗い所も多いので、検討いただきたい。行灯型の停留所ポールならば太陽光発電対応により照明を灯すことも可能ではないか。

事務局： 予算の関係もあり本日提示したような形になっている。照明については今後検討したい。

会 長： 試行運行でここまできちんとした停留所ポールをたてるのはめずらしいということは了解いただきたい。

委 員： 車のデザインは、ボディラインの色でルートのイメージを持ってもらうようにしている。

会 長： 予備車のデザインはどうなるか？

委 員： マグネットシートで対応の予定である。通常の点検は自社工場で整備できるが車検の時だけは予備車になる。

会 長： 前から見てくにつこミニであることがわかるようになっていれば問題はない。

委 員： 泉ルートの色が黄色だが車両の色が白であることもあり多少読みにくいきらいがある。

事務局： 色については現行くにつこの北ルートが青、北西中ルートが赤である。くにつこミニは、この色と重ならないよう配慮している。泉ルートは実際はオレンジ、矢川・東ルートは赤紫、青柳ルートは青紫としている。なお、実際に使う素材については、実物を確認の上決定するよう配慮する。

委 員： デザインが全体的に福祉車両っぽいがどうなのか。

- 会 長：車両デザインについては、運行事業者と市できちんとやっていただければいい。
- 委 員：とりあえず試行運行を進める中で問題があればまた検討したい。停留所で待っているお客様を見落とさないようにする件については乗務員の研修で徹底したい。
- 会 長：利用者が乗務員としっかりコミュニケーションをとるようにするというのも「コミュニティ」ワゴンの意味合いである。
- 委 員：ダイヤが遅れ気味の際にも、停留所で待っているお客さんの見落としのないようきちんと対応をお願いしたい。
- 会 長：運行ダイヤについては、早発の無いよう、また、多少の遅れは途中で回復を見込めるものになっているのでその点は大丈夫と思われる。
- 委 員：ルートによって色を決めておく必要はあるのか。
- 委 員：ルート毎に色分けする現在の方法で運行上は問題ない。乗りやすさ・分かりやすさ・親しみやすさ優先した。
- 委 員：了解です。
- 委 員：経由地がわかるようにすることも重要である。
- 委 員：矢川駅停留所は、矢川駅ロータリーに置きたいのだが。
- 事務局：矢川駅ロータリー乗り入れについてはスペースの問題があった。とりあえず矢川通り沿いの停留所で試行運行を始めさせていただき、今後、立川バス、立川警察と協議をすすめながら、見直しの中で可能であれば実施するようにしていきたい。
- 委 員：利用者からしても、ロータリーの中に停留所を設置して、立川バス路線バスのバス停と分けてもらってわかりやすくしていただいたほうがありがたい。
- 委 員：なるべく早くロータリーに入らせてもらえればと思う。矢川・東ルートバス停は、矢川駅からだいぶ離れている。
- 事務局：今年6月ごろの立川バスダイヤ改正（くにっこ泉コース休止分を路線バスで運行）をうけて調整したい。
- 委 員：くにっこミニの車両デザインだが、やはり福祉施設の送迎車両とはっきり違いがわかるようにしたほうがいいのではないかと思います。
- 事務局：本日提示させた頂いたデザイン案は、部分ラッピングで対応できることが前提となっている。どうしても必要であればフルラッピングなどの可能性も含め含めて今後の課題とさせていただきたい。

3. 議題

(1) 試行運行の評価基準について

委員：本日のこの資料は評価の基準というよりは撤退の基準である。横軸はお金と書くよりも収支と書いた方が資料として美しい。また、撤退とはどういう意味合いか？撤退した場合その後はどうするのか？なども考えあわせ「市がくにつこミニの委託運行をやめる」という程度の表現の方がいいのではないか。

会長：「撤退」という言葉は非常に重いものである。事務局からもう少し補足説明をお願いしたい。

事務局：3年の試行運行が終わった時にどうするのかをまず決めておきたいという思いがある。コミワゴンでできなかった場合、次に代わる物をどうするかを考えておく必要があるというのはその通りである。その際、どの程度の経費をかけられるかについて十分に検討する必要がある。人とお金の問題ですぐ撤退ではなく、警鐘を鳴らしておくのも必要となる。

委員：現行の「くにつこ」自体の収支はどうなっているか？

事務局：毎年3000万以上の赤字である。それをワゴンに置き換えて経費を抑えつつ乗合サービスを継続しようということであったが、3ルートということから、どうしても人件費がかかる。当初予定の無かった土曜日の追加や、日中だけの予定だった運行時間が朝晩まで延長になったことなどにより当初予定よりも費用がかさんでいるのが実態である。

委員：地方での鉄道からバスへの転換と同じように、経費がどうにもならなくなったら、次の手段を考えなければならない。

委員：現在のダイヤを維持するには各ルート一日2人の乗務員に加え、予備人員を合わせ9人必要だが、昼休み時間帯を運行しないことで各ルート一日1人で走らせる方法も考えている。経費削減については今後もいろいろな方法を考えていける。

委員：運行方法についてだが、バス停以外の箇所でも乗降できるようにできないか。そのほうが利便性が高まると思われる。

事務局：自由乗降区間の設定は、交通管理者と協議をしたが「連続したバス停」として要件を満たす必要があり市街地内での設置は困難との結論となった。

委員：事務局の撤退条件という資料によると赤字幅900万までなら運航可能と読める。それなら最初から一定の補助金を運行者に渡し、運行者は独自に赤字幅を減らす運行形態を検討し、さらに要望のでているオンデマンド運行も目指すというやり方もあると思う。

委 員：この資料にある一日 70 人は各ルート共通なのか？

事務局：年間 900 万はひとつの目安として出したものであり、経費の削減や運行の見直し等を試行運行開始後も色々考えて行きたい。今後、利用データをどうみるか、その方向を出していただければありがたいと思っている。70 人という数字も、乗合である以上少なくとも 1 回の運行に 2～3 人は乗ってほしいという考えから出したもので、ルート毎に条件は違う。今後データが出た時評価していきたい。

委 員：南部地域での交通手段のあり方については多摩交通さんとも話している。乗合での自由乗降は難しいが、タクシーとして出来ることはあると思っている。

委 員：予備車は基本的に車庫に置いておくのか？利用者の多い朝だけでも追走用に使えないか？

委 員：基本は車庫に置いておき、併用予備車として使うことを考えている。追走を前提とすると人件費も発生することはご理解いただきたい。

委 員：車両がバスからハイエースになって、乗れないということが出てくるのではないか。

事務局：今までのデータから、ほとんど無いと考えられる。一度に多人数が乗るという連絡があれば予備車対応などを検討したい。

会 長：「撤退」という言葉は、「抜本的な見直し」程度の言葉でいいのではないか。一方で、どうせ運行するならいいデータがでるに越したことはない。「抜本的な見直し」基準であれば、70 人の半分以上くらいでいいのではないか。運行経費についても、さまざまな努力を重ねることで、たとえば「700 万まで下げた」と胸を張って言ってい。いきなり撤退ではなく、ABC など段階的な評価をお願いしたい。これについては、いつまでにどう決めるという予定はあるのか。

事務局：庁内的には運行開始までに決めておいて欲しいという意見もあるが、最初のデータが揃うのは夏ぐらいになる。平成 27 年度予算の検討が始まるまで（平成 26 年初秋）にはある程度決めておきたい。

委 員：評価基準については、試行運行可能な水準という考え方がいいのではないか。評価基準と試行運行可能な水準の議論は別にして考えた方がよい。

委 員：市は各ルート 70 人／日を超えるためにどんなことをやればよいと考えているか？

事務局：今後は広報も含めて考えていきたい。青柳ルート、泉ルートについて乗者数を増やすのはなかなか難しいところもあるが、交通会議の中でいろいろなアイデアをいただいたことそのものがそれにあたると考えている。

委 員：潜在需要の掘り起こしを考えてほしい。ワゴンの補助額をくにつこの事業全

体でプールするようなことは考えていないか？

事務局：事業としてはそのような対応になるが、やはりルート毎での評価は必要と考えている。

委員：利用向上方策についてはルートの沿線にある商店街等の協力を得て、具体的に市役所担当課とさまざまな検討を重ねていきたい。

会長：町内会回覧板などで利用実績をフィードバックしている自治体もある。この意味合いは、コミュニティワゴンが「地域の人たちの支え」があってこそのものであることを PR するには有効である。会議の中だけではなく、運行を開始してから引き続き考えたい。

事務局：評価基準については事務局内で再度整理し直した上で、次回の会議の前に予め委員各位に送付しご意見をいただくことにしたい。

(2) 回数券について

委員：回数券についても年齢確認のための提示が必要か？

事務局：その通りです。

委員：50 円券片 1 枚を一回乗車分と勘違いして出してくるような高齢者も想定されるがその場合はどうするか？

事務局：もう一枚いただくか現金で 50 円いただきます。

会長：開始時期についての記述がないが試行運行開始に合わせて販売開始するか？

事務局：これからデザインを検討し校正し印刷をすることを考えると試行運行開始時は難しく、早くても 6 月ごろになりそうだ。

委員：現行の「くにっこ」の回数券を出された場合はどうするか？

事務局：京王バスの回数券で立川バスに乗れないのと同様、おことわりする。

委員：Suica/PASMO など交通系 IC カードは使えるか？

事務局：諸事情により対応は考えていない。

委員：Suica/PASMO などの交通系 IC カードで回数券を買える券売機を置いたらどうか。

会長：使用済み回数券の表紙 5 枚で一冊プレゼントというのは手続き的に問題ないか？事務局提案に対してはとりあえず合意をいただくということではよろしいか？

委員：運賃は地域公共交通会議の合意事項なのでこの場で合意いただければ基本的に問題ない。

委員一同：異議なし

(3) 周知について

委員：今提案いただいたのは、自治体がやれることだけではないか。それだけではなくくにっこミニでいける行き先のお店、福祉会館、病院などに周知のチラシを置いていただきたい。また、バスマップや散歩マップなど健康面もアピールしつつしっかりつくってほしい。

委員：4月初旬の桜まつりでPRしたらどうか。停留所にも大きく貼り出してほしい。また、スーパーの掲示スペースなども活用したらどうか。

委員：車両デザインも含めて、周知の際はインパクトの弱い白抜き文字は使わないようにしたほうがいいのではないかな。

委員：シルバー専用の回数券をつくって回数券を買う時だけシルバーパスや運転免許証などを見せればいようにできないか。

4. その他

事務局：以前割引率の変更になるため合意をいただいた「くにっこ」170円回数券の2000円販売はおかげさまで2月1日から開始しております。その節はありがとうございました。

事務局：国立市地域交通計画（案）がまとまりましたので現在パブリックコメントを募集しております。詳細はホームページにあります。ご協力をよろしくお願い致します。

事務局：次回の会議は、5月半ばから後半を予定しております。

(以上)